

バッハは、生涯現存するだけで22曲の世俗カンタータを残しました。今回は、その中でフルートが活躍する『悲しみを知らぬ者』と『コーヒーカンタータ』の愉快的アリアを取り上げます。そして6曲のフルートソナタの中で、モーゼの出エジプト記を彷彿とする最も長大な口短調BWV1030とイエスの受難を描写したと想えるイ短調の無伴奏パルティータBWV1013です。それぞれ絵画を見た想いです。

かつて私はバーゼルの学校でバッハの音楽に必要な不可欠なものは『調性』であることを学びました。宗教音楽の原点であるグレゴリオ聖歌のその普遍性でした。勿論ひとつのアプローチではありますが。実に、バッハの作品から私が呼ばれているような取り組みたい衝動と、現在の私を作品に写したい思いを数年毎に起こさせるのです。

今回、私の大きな喜びは、榎本桂子さんのソプラノとの共演が叶ったことです。正にヨーロッパの澄んだ心、空気感、愛すべき朗らかな素晴らしい表現力を味わっていただきたいと思います。 勝俣 敬二

演奏者プロフィール

勝俣 敬二 Keiji Katsumata フルート奏者、グレゴリオ聖歌指揮者



米沢市に生まれる。日本大学芸術学部更に同大学芸術研究所を卒業後、スイス政府の推薦留学生としてバーゼル市立音楽大学及びバーゼル・スコラ・カントゥムに留学。各時代のフルート、グレゴリオ聖歌を学びスイスの芸術家資格ディプロムを得る。長く日本国内や36回の渡欧、ヨーロッパ各地でリサイタル他演奏活動を展開。数多くのスイスの現代音楽を我が国に紹介し初演、邦人作品をヨーロッパにて初演した。母校日大芸術学部講師として室内楽、古楽【調性論】を講義。現在、東京バッハ・カンタータアンサンブルフルート奏者。レーズン派フルート・デュオ同人。フルート・セミナリオ主宰。米沢、新発田、那珂 各フルート音楽研究会主宰。聖アンセルモ・グレゴリオ聖歌隊及び米沢グレゴリオ聖歌隊指揮者。一般社団法人支倉常長日西文化協会正会員。伊達三日月街道活性化協議会会員。令和3年度米沢市芸術文化協会特別賞受賞。令和5年より同協会主催事業『市民芸文講座フルート講座』、『こども文化クラブフルート講座』の講師を担当している。主なCDには『天正少年使節と400年前の音楽』、『F&K.ドップラーフルート音楽選』、『J.B.de ボワモルティエ・6つの組曲集』、『G.フォーレとC.フランクの芸術』がある。

榎本 桂子 Keiko Enomoto ソプラノ

和歌山県田辺市に生まれる。早稲田大学第一文学部ロシア語ロシア文化専修を卒業。早稲田大学混声合唱団を経てドイツ・フライブルグ音楽大学声楽科及び大学院オペラ科、スイス・チューリッヒ芸術大学大学院音楽教育及びソリストコースを卒業。北ドイツ放送合唱団、チューリッヒジグアカデミー、バッハコレギウム・ジャパン、バイエルン放送合唱団、J.S.バッハ財団、フラウミュンスター・ヴォーカルゾリステン等のメンバーとして、又国内外の数多くのオーケストラのソリストとして、特に宗教音楽、リートと現代音楽の分野に於いて国際的に活躍している。スイス・チューリッヒ在住。



小野 絢花 Ayaka Ono チェンバロ

桐朋学園子供のための音楽教室にてピアノを始める。幼少期より教会音楽に親しむ。東京音楽大学ピアノ科を卒業、パリ・エコールノルマル音楽院ピアノ、室内楽を修了。日本バッハピアノコンクール、近代フランスピアノコンクールにて受賞。2015年に渡英し、グレゴリオ聖歌を始め、中世・ルネサンス期の声楽と鍵盤作品を研究。Dr.レベッカ・スチュワート氏のもとでルネサンスポリフォニー声楽を学ぶ。バーゼル・スコラカントゥム音楽院で中世・ルネサンス鍵盤演奏修士号取得。ヨーロッパ各地で演奏会を行い研鑽を積んだのち帰国し、後進の指導にあたり共に演奏活動を展開中。



1982年創立 米沢フルート音楽研究会

フルート、バロックフルート教室とグレゴリオ聖歌講座

～初心者から専門家まで～

生徒募集

<講師> 勝俣 敬二
<お問合せ> 教室 電話
直通 電話
メール

0120-032574
090-8584-0400
flauto-seminario@docomo.ne.jp

(QRコードをご利用下さい)



メール